

### 1-6 環境基準が設定されている4物質の経年推移

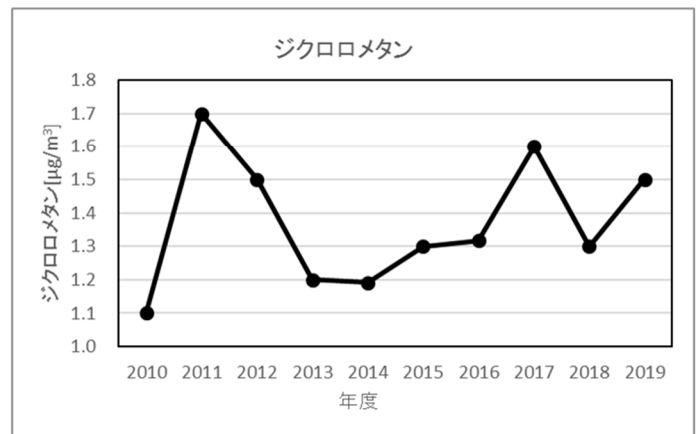
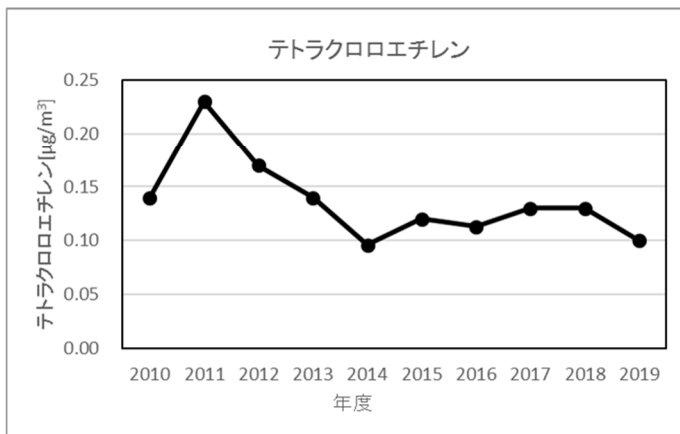
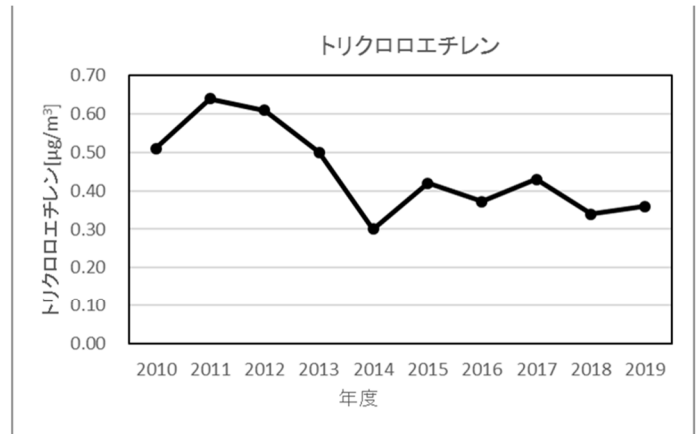
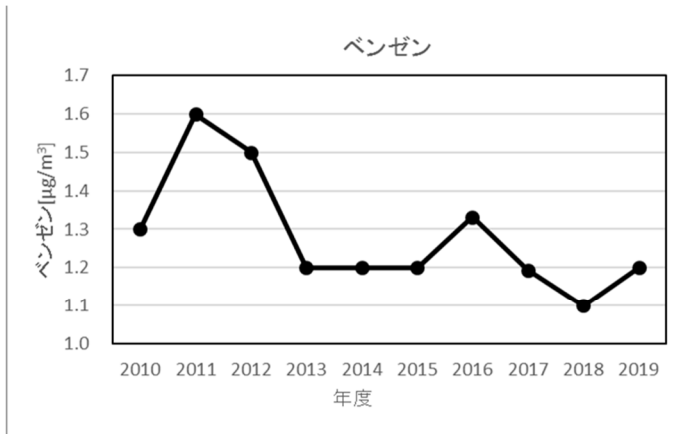
2010年度から2019年度までのベンゼン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン及びジクロロメタンの全地点平均値について経年推移を示した。

**ベンゼン**:2011、2012年度において若干濃度が高かったが、それ以外の年度は1.1~1.3  $\mu\text{g}/\text{m}^3$ で推移した。

**トリクロロエチレン**:2011年度をピークに減少傾向にあったが、2015年度以降は横ばいの傾向を示した。

**テトラクロロエチレン**:2011年度から2014年度にかけて減少したが、2014年度以降は横ばい傾向となった。

**ジクロロメタン**:2011、2017、及び2019年度に濃度が大きく上昇した。



### 1-7 指針値が設定されている9物質の経年推移

2010年度から2019年度までのアクリロニトリル、塩化ビニルモノマー、水銀及びその化合物、ニッケル及びその化合物、クロロホルム、1,2-ジクロロエタン、1,3-ブタジエン、ヒ素及びその化合物及びマンガン及びその化合物の全地点平均値について経年推移を示した。

**アクリロニトリル**:2012年度をピークに低下傾向を示しており、2016年度以降は横ばいで推移している。

**塩化ビニルモノマー**:2010年度から2013年度にかけて低下し、2014年度以降上昇傾向を示したが、2019年度は減少に転じた。

**水銀及びその化合物**:2010年度から2018年度にかけて1.7~1.9  $\mu\text{g}/\text{m}^3$ の間で横ばいで推移していたが、2019年度は大きく上昇した。

**ニッケル及びその化合物**:2010年度から2014年度にかけて減少したが、2014年度以降は横ばい傾向となった。

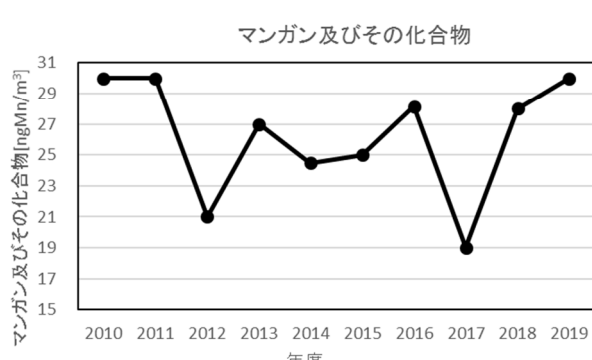
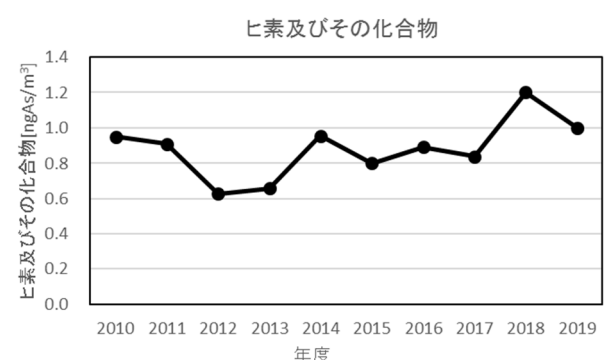
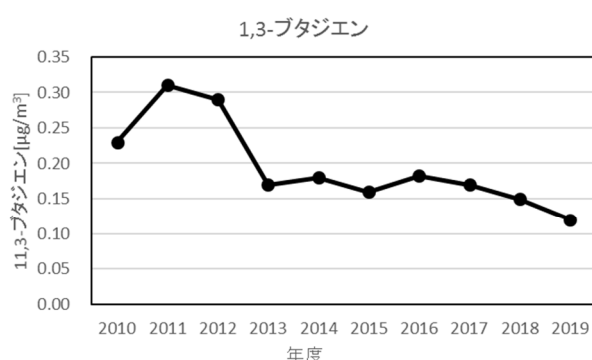
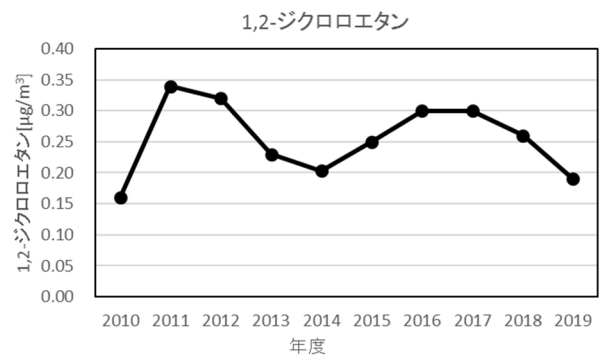
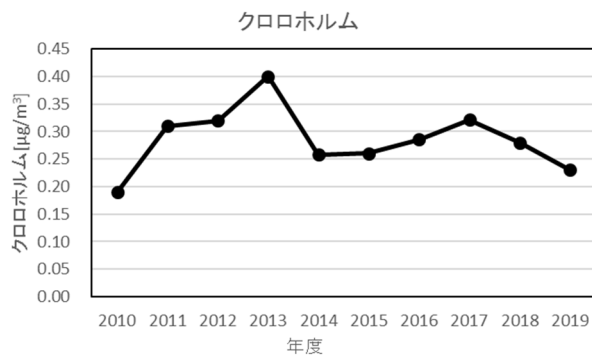
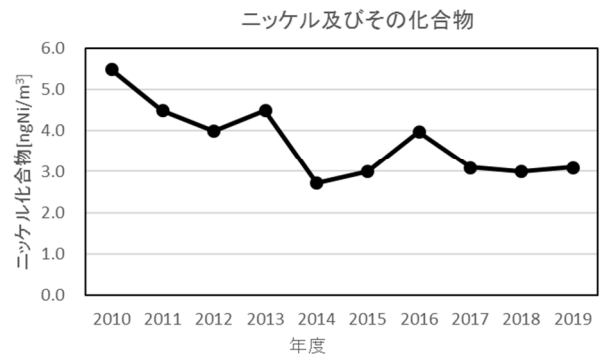
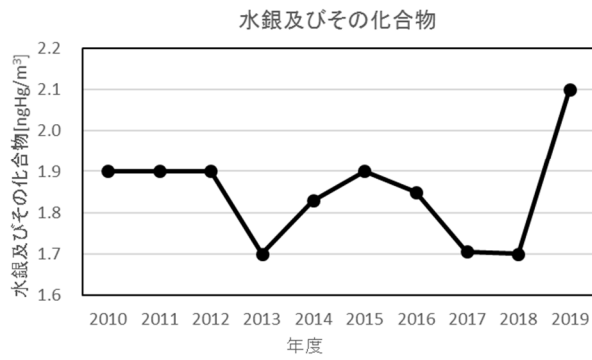
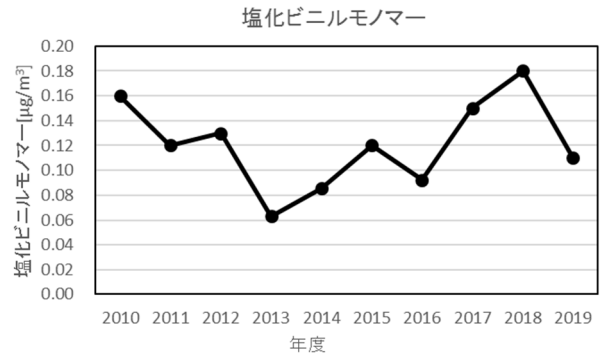
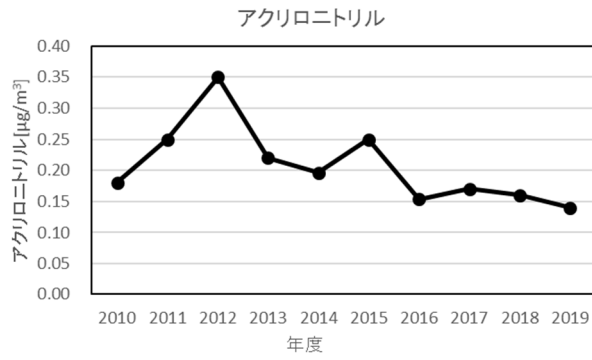
**クロロホルム**:2013年度に濃度が上昇したほかは、概ね横ばいで推移した。

**1,2-ジクロロエタン**:2011年度をピークに2014年度にかけて減少し、2014年度から2016年度にかけて上昇傾向を示したが、2017年度以降は減少傾向を示した。

**1,3-ブタジエン**:2011年度にピークとなり、その後減少傾向を示した。

**ヒ素及びその化合物**:2010年度から2012年度にかけて減少し、それ以降は緩やかな上昇傾向を示した。

**マンガン及びその化合物**:2012年度、2017年度において濃度が減少したほかは、概ね横ばいで推移した。なお、2017年度は濃度の高い千葉市の地点が参考値となったため、平均値は減少した。



### 1-8 環境基準及び指針値が設定されていない8物質の経年推移

2010年度から2019年度までの全地点平均値について経年推移を示した。

**アセトアルデヒド**: 2011年度から2013年度にかけて低下し、2014年度以降は横ばい傾向を示した。

**酸化エチレン**: 2014年度にピークがあり、その後は減少傾向にある。

**ベンゾ[a]ピレン**: 経年的な変動が大きいですが、2016年度以降は減少傾向にある。

**ホルムアルデヒド**: 2010年度から2013年度までは横ばい、2014年度にいったん上昇したが、その後は横ばい傾向を示した。

**ベリリウム及びその化合物**: 2010、2014、2018、及び2019年度に大きく上昇する変動を示した。

**クロム及びその化合物**: 2011年度にピークとなり、その後は横ばい傾向を示した。

**トルエン**: 2012年度にピークとなり、その後は横ばい傾向にある。

**塩化メチル**: 2011年度に濃度が上昇したほかは、横ばい傾向にある。

